

司会：ただいまから、令和7年定例記者会見を開催させていただきます。本日、お集まりをいただきまして誠にありがとうございます。それでは、資料に沿いまして、山村町長から説明させていただきます。

町長：皆さん、こんにちは。定例の記者会見ということで、お忙しい中お集まりをいただきまして、ありがとうございます。私もほぼ12年間、町長させていただいておりますが、定例記者会見をさせていただいたことが無くて、前回から定例化して、後任の町長に引き継ごうと考えております。わずかな期間ではございますが、ご協力よろしくお願いしたいと思います。

①【令和7年 広陵町議会定例会提出議案】

町長：大きく7項目にまとめさせていただいております。資料の方にございますように、まず1番目は令和7年の広陵町議会の件でございますが、大きな見出しは定例会となっています。第1回臨時議会も2月に開催させていただいて、人事院勧告に伴う給与改定関連議案の他、通学路の歩道橋の上部工工事の工事請負契約の締結の提案をさせていただき、いずれも原案可決をいただきました。

3月4日から招集の第1回定例町議会提出案件については、報告が6件、議案が22件一般会計予算は総額で163億1000万円ということで私は今年6月30日に任期が参りますので、考え方は骨格予算の考え方で編成をさせていただいておりますが、継続事業また義務的経費等を計上しますと、昨年と全く同額になったわけでございます。

新規事業は極力抑えて編成をさせていただいておりますが、やはりどうしても必要な経費というのは、当初予算に組み込んでおかないと事業が停滞しますのでそういった考え方で編成をさせていただきました。

公共施設等整備基金条例というのを制定させていただこうということで、この基金は広陵町の中央公民館、役場庁舎、グリーンパレス、それ以外の公共施設も含めてございますが、やはり老朽化が進んできているということで、近い将来、やはり建て替えをする必要があると思っております。

公民館については、建て替え要望が町民の皆さんから陳情という形で署名活動をされて、議会の方でも請願として採択されております。

しかし、このご時世、単独で建設するというのはいかがなものかということで、この役場庁舎も、中央公民館、それからグリーンパレス、さわやかホール、これらを合わせて複合化し、いつでも誰でも気軽に集まれる公共施設を作ってはどうかということで、今調査研究を進めております。

議会の方にもその方向付けはさせていただいているのですが、まだ青写真ができていないわけではございません。

これから多くの皆さんと議論しながら、絵を描いていきたいということで、私の任期中に方向付けだけをさせていただこうということでございますが、財源の一部、これからも有利な財源、国の支援を受けられるような財源を確保した上で事業化したいと思います。それでも、やはり一般財源が必要ですので、今のうちに積み立てをしておきたいということで令和7年の当初予算に組み込ませていただいております。最初は7億円積み立てようかなという案になっております。

それが、広陵町議会定例提出議案の予算一覧表ということで、先ほど申し上げましたように一般会計をはじめ、特別会計を含めると、255億円余りの予算になりますが、前年度とほぼ同額に近い形、一般会計は全く同額になっています。

●広陵町子ども・子育て支援事業計画（第3期）

町長：子ども真ん中社会を実現するための計画を議論いただくということになっております。

②【愛媛県東温市との相互連携協定の締結】

町長：以前から交流協定は締結をしておりましたが、やはり全ての分野にわたって相互に連携をしていこうということで、東温市さんからご提案をいただきまして2月15日に協定を締結させていただきました。東温市さんとのご縁は、中小企業小規模企業振興基本条例を先に制定されていた先進地でございます。職員が調査研究に東温市さんにお伺いをして指導いただいた時のご縁で、交流が始まりました。東温市市長が2月15日に広陵町まで来ていただいて協定を締結させていただきました。

③ 【町制施行 70 周年記念事業について】

町長： 私は 6 月 30 日にも退任させていただきますので、式典などのメインの行事については新町長に委ねたいと思っております。ただ、準備が必要ですので町民の皆さんに 70 周年のキャッチフレーズ・ロゴマークだけは募集をさせていただいて、気分を盛り上げようかとしております。

今年の 5 月 25 日に町政説明会がございますので、その場で広陵町の町の将来を子供たちに語ってもらおうと考えており、何かイベントとして、派手なものではないのですが、やってもらうことを考えております。また、キャッチフレーズ・ロゴマークの選定結果で表彰式もさせていただこうかなと思っております。キャッチフレーズ・ロゴマークの募集期間は 3 月 31 日の締め切りでございます。その後、選定させていただいて優秀者を決めていきたいと思っております。60 周年の時もロゴマークを小学生に作ってもらいました。今回も 70 周年のロゴマークを募集しようということでございます。

④ 【ゴミ減量等推進審議会からの答申】

町長： これは広陵町のクリーンセンターが操業は終えておりまして、現在は天理にできました新しいゴミ処理施設に、今は試運転中でございますが、ゴミは全てそちらに運ばせていただいております。

10 市町村で共同化することによって、ゴミ処理経費がもちろん低く抑えられるということになるわけでございますが、その低く抑えられるのも、住民の皆さんの協力があることだということでございまして、議会の方からはゴミ袋の有料化の価格を下げてはどうかという提案がございました。今の価格が妥当なのかどうかということも含めて、ゴミ減量リサイクルのあり方について審議をしていただいて、先日答申をいただきました。

常にゴミ分別リサイクルの状況について確認をしていただくとともに、ゴミ袋の価格についても今が現状通りでいいのではないかと。ただ、将来に向けてそのままというわけではないので、適時見直しが必要ではないかということで答申をいただいておりますので、この議会に報告を申し上げているところで、当面は据え置きという答えを頂戴しております。

⑤ 【ストロベリータウン広陵 2025】

町長：広陵町も農業がなかなか厳しい局面を迎えていることから、農業塾を立ち上げて、イチゴ農家を育成しようということで、いわゆるイチゴの専門家を県の農業試験場長・農業大学校長であった信岡さんという方に来ていただいて、イチゴの栽培技術を指導していただきました。

できれば広陵町の農家に取り組んでいただきたかったのですが、なかなか手を挙げていただけないところもございます。当初から広陵町外の人でもいい、広陵町内の農地を使って栽培してもらったらいいということで、今では半数ぐらいは町内の方ですが、町外の方も頑張っていてイチゴの生産が進んでおります。

これをさらに PR するために飲食店と連携をして、ストロベリータウン広陵という催しとして、今年で3回目になるかと思えます。25 店舗に参加をしていただいて、こちらでこのメニューを食べていただいたり、買っていただいたりした場合、スタンプを押していただいて、スタンプが3つ集まれば応募していただき、今年に取れているイチゴではなく、今年の秋に植えて、年末に新しいイチゴが取れる“初取れイチゴ”をプレゼントするという企画をしております。

これがストロベリータウン広陵で、農家と飲食店を元気にしていただくという催しでございます。

⑥ 【広陵金明太鼓 30 周年ありがとうコンサート】

町長：平成5年にかぐや姫元年ということで、事業の一環として広陵金明太鼓が創設されて、今年で30周年となり、金明太鼓を組まれたのが平成6年でございます。今年が30周年にあたるということで、3月2日にかぐや姫ホールで金明太鼓を指導していただいた舞太鼓あすか組さんとコラボで演奏していただきます。また、無料で町民の皆さんに見ていただこうと、2日・2部制で開催をすることになっております。金明太鼓がもう本当に人気が高くて追っかけがいろいろでございます。県内だけでなく、全国から出演依頼が来ております。チームのメンバーの不足が課題でしたが、代表がいろいろ力を尽くして、若い子どもたちにも入っていただいて要請をしていただいております。これも続けていただきたいなということで、この30周年コンサートでまた新しい

メンバーが増えるのを期待しているわけでございます。

⑦【こども局関連事業】

●4月から3小学校区内の放課後子ども育成教室を民間委託に移行

町長：今年の4月で真美ヶ丘第1小学校区の放課後子ども育成教室も民間委託が始まって1年が経つわけでございますが、今年の4月から3小学校区、真美ヶ丘第2小学校・北小学校・西小学校、この3つの放課後子ども育成教室を民間委託にすることになっております。東小学校区につきましては、認定こども園が建設中ですので、そちらが建設されますと、東幼稚園が空いてきますので、そちらを活用して放課後子ども育成教室の整備をさせていただき関係で1年遅れるわけでございますが、最終的には5つの小学校全てを民間委託するという形で進めさせていただきます。

●学童保育施設の民間事業者選定に関する公募型プロポーザルを実施

町長：5つの小学校区で放課後子ども育成教室を実施しておりますが、なかなか利用する子どもさんが多くて、まだ待機が出るぐらいということでございますので、民間の手によって民間施設を活用して、放課後子ども育成教室をやっただく方に手を挙げていただこうということで、今プロポーザルをさせていただいております。

結果が出ますのは、今月の28日に審査結果を公表させていただき予定でございます。今、公募をさせていただいて2業者から参加をするという表明をいただいております。決まりましたら、今年の4月から7月までを準備期間として、夏休みから始めていただくことになっております。

●「ときわ広陵こども園」が令和8年4月開園を目指して着工

町長：畿央大学附属広陵こども園と同じで、公私連携法人のスタイルでさせていただいているわけでございます。基本的にこれができますと、東幼稚園、南保育園、私立常葉保育園の3つが1つになって、認定こども園ができるということで、旧の広陵交通公園の跡地に今建設を進めていただいております。

●真美ヶ丘中学校区の公立幼稚園・保育園を認定こども園化に向け計画中

町長：真美ヶ丘中学校には公立の幼稚園が2園、公設民営の保育園が2園、合計4園

あります。真美ヶ丘第二小学校区にあります真美北保育園と真美ヶ丘第二小学校の附属幼稚園について、真美ヶ丘第二小学校の附属幼稚園をこども園化し、認定こども園の幼稚園型として公設・公営でさせていただくことになっております。

真美北保育園は今5歳児まで保育をしていただいておりますが、0歳から2歳児に年齢を制限して、できるだけ多く受けていただくように、0歳から2歳児の保育枠が非常に少ないということもありますので、公設民営で0歳から2歳児を預かっていただきます。3歳から5歳児は真美ヶ丘第二小学校附属幼稚園に整備する認定こども園の幼稚園型の方に通園をしていただくという考え方です。

1年遅れて真美ヶ丘第一小学校区の西保育園と真美ヶ丘第一小学校附属幼稚園を合わせて公私連携型の保育所型のこども園も開園していこうということで準備を進めております。真美ヶ丘第二小学校区は令和8年4月から、真美ヶ丘第一小学校区では令和9年4月からということで進めさせていただきます。

令和7年度の予算の中に真美ヶ丘第二小学校幼稚園の認定こども園の移行に向けた改修工事も計上させていただいております。

【質疑応答】

記者：公共施設等設備基金条例で、中央公民館と庁舎とグリーンパレスの複合化施設というのは、もうほぼその方向は固まっているのですか。

町長：私の考え方としてはその方向で、担当の方も調査研究してくれている中で複合化した方がいいということで準備を進めております。

記者：どこに建設するのですか。

町長：庁舎とグリーンパレスと中央公民館をできたら1ヶ所に集めたいということで、さわやかホールとグリーンパレスが並んでおりますが、グリーンパレスは鉄骨ALC造のため耐用年数が長いわけではありませんので除却します。この際役場庁舎ももう相当古くなっております。中央公民館も同様で古いので、そこに集めて、さわやかホールと一体的に利用できるようにして、いろんな機能を持たせてはどうかということで方向はできるのですが、具体的な詳細はまだ決まっておりませんので、これから検討して参ります。

記者：とりあえず新年度に7億円積むということでしょうか。

町長：はい、積ませていただきます。その使い道はまだ決まっておりません。

記者：毎年積んでいくのですか。

町長：はい。

記者：出来上がりは、何年頃の想定なのですか。

町長：私が責任持って言えるわけではないのですが、10年先ぐらいかなと考えております。やはり計画を立てて町民の皆さんといろいろ議論をして、形が整う建設をするまでの時間が相当かかると思います。

記者：中央公民館は早くなんか何とかしてくれという声がありますが、どう考えておられますか。

町長：一時しのぎ的にはしお元気村がありますので、はしお元気村を改修する予定をしております。そこに、公民館の機能を一部移すのと、グリーンパレスもまだ当分使えますので、そこに公民館機能を移転させるということで繋いでもらおうと考えております。

ただし、グリーンパレスを解体するときはどうするかということもあわせて考えていかないと、公民館の利用者に迷惑かけますので、合わせて小・中学校の施設を使うこと、地域開放すること等、やはり公共施設を有効に活用する方法に持っていけないといけないのかなと思います。

小・中学校のプールももう廃止しようということで、教育委員会が動いていますのでプール指導は民間の施設を使わせていただいて、専門のインストラクターに指導してもらうということで、今年からもうスタートしております。プールの古いところから始めましたので、最終的には全ての小・中学校を委託しようということで、これも7年度予算に全部上がっております。

記者：7年度予算の内訳を教えてくださいませんか。新規事業が少なめとおっしゃっていましたが、いかがでしょうか。

藤井部長：一般財源の総額だけのみお示ししたので、内訳歳入の前年度比較、歳出の性質別の前年度比較を改めてお示しさせていただきたいと思います。

町長：これは目玉事業は無く、継続事業がほとんどです。

記者：こども園の改修もでしょうか。

町長：含まれております。

どこの市町村も今年は増額しているところが多いです。

記者：70周年の記念事業で70周年の記念式典は町長は出られないのでしょうか。

町長：私は出ないので、記念式典の日取りだけ一応決めようかということで11月30日としております。新町長には、この日取りでどうですかということで引き継ごうかなと考えております。別にそれで決めてもらうことは必要なく、変えてもらっていいと思います。

記者：放課後子ども育成教室いわゆる学童保育が民間委託されて、議会でも請願が出ましたか。

町長：出ました。指導員がガラッと変わって子供が落ち着かないなど、いろいろ苦情があって、請願という形で出ました。

記者：香芝市も同じ業者がやられており、指導員をアルバイトでやられていたと伺っておりますが、いかがでしょうか。

町長：スキマバイトというのを使っており、安心できる人材を確保することができないのではないかとということで指摘されました。

記者：新たに事業者が参加表明されているところはありませんでしょうか。

町長：ありません。現在と同じ業者です。初めから5小学校区全て受けるという前提で契約しております。

記者：問題はありませんでしょうか。

町長：今聞いている状況では指導員が8割ほど残ってくれると言われております。クラブ長もそのまま残ってくれることになると思います。

記者：真美ヶ丘第一小学校のひまわりクラブは、うまく指導員は回っているのですか。

町長：はい、問題ありません。管理する部署も人手不足の面もありましたので、ちょっとテコ入れをし、常に現場を確認するスタッフも入れました。

記者：結構あちこちでやられているところでしたでしょうか。

町長：はい、預かってもらう時間も増やし、時間の延長にも対応し、給食も提供できるようにしておりますので、保護者からは喜ばれております。

記者：東温市との連携協定締結ですが、元々メインは中小企業小規模企業の振興に関するところから出発して、今回の協定で、例えば災害時の相互応援とか健康維持増進、中小企業小規模企業の枠組みとまたテーマが違ってきているのかなと思うのですが、その辺何か具体的に進みそうなもの等、何かあるのでしょうか。

町長：やはり防災の関係で災害が起きたときに応援しあえると思います。距離が離れている方が同じように被災地になることは少ないだろうと思います。少し距離もあるのですが、防災の関係で応援協定が一番大きいのかなと思います。

お互いに備蓄しておこうと市長とも約束しており、いざというときに提供し合えるようにしておきましょうと話しておりました。

記者：それぞれこんなものを備蓄しよう、ということはありませんでしたでしょうか。

町長：具体的にそこまでは指定はしておりません。能登でも地震が起きて被災地へ物資を運ぶという時に、本当に必要なものかどうかというところがなかなか把握ができず、こちらが持っているものをそのまま送ったので、役に立ったかどうかというところが見えてきませんでした。やはり事前にお互いに何ということとは決めておいた方がいいかと思います。

記者：イチゴは元々広陵町が産地でしたでしょうか。

町長：はい。

記者：今はどのぐらいの方が生産されているのでしょうか。

町長：10人ぐらいに増えたと思います。

記者：増えたということはどの程度から増えたのでしょうか。

町長：0人の状態でした。元々私の住まいしている地域がイチゴの産地でした。

それが長年栽培していることによって病気が出て、生産者も高齢化して、後を継ぐ者が誰もいなくなりました。これでは寂しいので、やはり農地を守るために儲かる農業をしてもらうのには何が一番いいのかと県とも相談しましたが、やはりイチゴだという話になりイチゴ農家を育成していこうということになりました。

記者：最初に実施したのは何年前ですか。

町長：10 年前になります。

記者：広陵町の農地で栽培農家を復活させるために、指導をする人を呼び、指導してもらって栽培している形ですね。

町長：そうです。

ふるさと納税の返礼品に出してもらうのが効果あり、現在返礼品で靴下とイチゴが競っております。売上、いわゆる返礼品の人気の一二を争っています。

記者：生産指導を町として担当している部署はどこでしょうか。

町長：農業振興課です。今も農業塾をやっています。イチゴ農家を育成するために町でビニールハウスを3棟建設して、農業塾で勉強した人の実習農場として有料で貸し出します。そこで技術を磨いた人が自分で投資をし、農地は町が斡旋しております。今年自分で農地を手に入れた人もありました。

記者：定例記者会見はどれぐらいの頻度で行われているのでしょうか。

町長：議会定例会前の年4回を予定しております。ただし、途中でいろいろ情報が溜まり、町側がお知らせ願いたいというときは臨時でお願いすることもあるかと思えます。

記者：新規事業は新町長に考えてもらうということでしょうか。

町長：新規事業は新町長に考えてもらいます。複合施設を作るといっても、10年ぐらいは絶対かかると思えます。計画して準備だけは私で進めて、引き継ぐと思っています。

記者：普通建設事業でガタンと減っているのは何でしょうか。

町長：天理で建設するゴミ処理施設が去年は入っておりませんでしたので、その影響が大きかったです。

記者：ゴミ処理施設分が積立金に回っているから、他の部分で増減があまりないということでしょうか。

町長：7億円は町が積み立てているお金を箸尾工業団地造成の資金で貸し出しており、そちらが戻ってきたら、財政調整基金に積まないで公共施設の整備に充てるということで使い道を制限しておこうかと考えております。

記者：歳出積立金のところはかなり増えているのですが、先ほどおっしゃっていた7億円をそのままプラスされているということでしょうか。

町長：はい。

記者：維持補修費が少し上がっているのは何でしょうか。

町長：真美ヶ丘第二幼稚園の整備です。そちらで1億2,000万円ほど事業費を予算計上しております。

記者：今回骨格予算ということですが、町長としてはこういったところに重点を置きましたでしょうか。

町長：子ども育成に関わる予算について新規事業はありませんが、認定こども園化を進めてきた事業について、あと少しですが完成させなければなりませんので、そんな方向付けもさせていただきます。将来的には教育委員会が真美ヶ丘地域の子どもの減少に伴って、真美ヶ丘ニュータウンというのはもう今はオールドタウン化しているもののやはり魅力あるまちなので、義務教育施設、子育て支援施設は充実させるべきです。まちの魅力を高めることによって、新しい住民に選んでいただけるのではないかと考えておりますので、そちらも力を入れて整備をしていきたいと考えております。

子育て支援施設はやはり、バランス良くどの地域も更新をしていきたいと思い、それを繋ぐための予算を入れております。

防災では平成緊急内水対策として、広陵町は内水被害が心配される地域がありますので、国・県の支援を得て、今3ヶ所で調整池の整備を続けております。ここもやはり早く完成させるために経費は積極的に計上させていただいております。

歩道橋にも2億7,000万円ぐらい計上しております。もう少し力を入れたいのは、町内の道路です。やはり傷んできているので、何とか早く補修をしていきたいとは思いますが、どうしてもそちらには予算がなかなか割けないので、悩ましいところです。

産業振興も力を入れたいということで、こちらも継続してKoCo-Bizという無料の相談支援事業があり、大和高田市さんと一緒に進めてきましたが、大和高田市さんが抜けるということになりましたので、広陵町だけでも何とか続けていこうと今担当で調整しております。

記者：6年度の補正予算は何か補正するのでしょうか。

町長：6年度の補正予算は減額予算です。増額の補正予算では物価高騰対策で各世帯に配布する地域振興券事業があり、1世帯当たり3,000円と18歳以下の子ども1人につき2,000円を配布する事業があります。国の交付金を活用させていただいています。

企業事業所の燃料高騰に対する支援も今回の補正で上げさせていただいております。

ただし、議会に提案をさせていただきますので、通るか通らないかは、これからの議論となります。

司会：それでは定例記者会見終了させていただきます。ありがとうございました。